

大津町議会 広報編集特別委員会行政調査

氏名 三宮 美香

視察研修名：大津町議会広報編集特別委員会行政調査

視 察 先：①奈良県王寺町 ②鳥取県大山町（両日ともオンライン）

期 日：令和6年8月19日（月）～20日（火）

研修テーマ：議会だより編集について

研修報告 意見・感想

①奈良県王寺町 王寺町広報アドバイザー村田大地議会事務局より説明を受ける
王寺町の人口は約2万4千人、王寺町から大津町役場までは飛行機利用で2時間30分で到着。

王寺町駅は一番乗降客数が多い駅

村田さんは広報を7年間され議会事務局の広報アドバイザーとなる。仕事以外にも自治会長や児童文化協会理事、自治体広報LABを運営されている。

広報担当の時に届かない広報は税金の無駄だと感じたことから「地域が舞台。人が主役」をモットーに印刷以外手作りで予算を確保し、人を前面に出す紙面とし、文字を少なく写真を大きくした。

人が主役の特集面とし、全国広報コンクール入選、毎日新聞広報誌コンクールで優秀賞をとるなど対外的な評価を得た。それにより令和4年度に実施された住民アンケートで広報誌を読む人が増え広報が充実した。

議会事務局への異動に伴い広報に課題を感じる正副議長と議会だよりのリニューアルへ。

ターゲットを全ての町民ではなく、20～40歳代の女性とし、紙媒体とLINEを活用し視聴数を増やした。

一般に紙面などを読むときに、自分に必要な情報かを判断する時間は0.3秒だと考え、紙面を報告書という考え方をやめ町民の参加を増やし、読みやすいレイアウトを心がけ文字を少なく写真を多くした。

町民の参加では、町に関わる全ての人を紙面に登場させ、議会と町民それぞれの視点を掲載することで町民の声が見える化した。また、webアンケートで企画や構成の意見を聴いた。

報告書という観点ではなく、関心が高い案件に優先順位をつけメリハリをつけた。行政用語や議会用語は言い換えや解説を入れた。また、議会を身近に感じてもらおう巻頭企画、情報の整理、近所の人々が載っているという親近感、余白を作りユニバーサルデザインとするなど読みやすいレイアウトとしている。情報量が多い案件は町公式サイトへ誘導し、見出しは大きく簡潔にし文章もスリム化し読み手を一番に考えた。簡潔でやわらかい表現とし文章を統一した。住民生活に関わる記事を大きく取り扱うようにした。中学生でもわかる内容で解説をつけた。文字や見せ方も視認性・可読性・判読性の視点をもち使う色も3色を基本とした。

レイアウトも整列の法則・近接の法則・反復の法則で見やすくし読み手の視線の誘導も考えた。

住民が目的をもって町に関わることは1年にあるかないかで町のことを知られなければ意味がない。以上から編集方針を①町民の参加②報告書ではなく、議会に感心をもってもらうためのツール③読みやすいレイアウト④文字を少なく写真を多くとし、議会だよりを町民の愛読書にすべく編集している。

編集方針を委員で共有し細かく編集方法について整理されているので作成しやすい印象である。また、議会だよりを報告書の書き方から町民の意見も入れた双方の議会だよりとしているところが今までの議会だよりに対する考え方を変えたところだと思う。

議会事務局が編集していて驚いた。

②鳥取県大山町

広報常任委員会8人、担当事務職員は1人

発行部数5,800部、年4回発行

令和6年度当初予算は印刷製本費2,068,000円

定例会2週間前に①第1回会議（特集決め、委員の役割決め）

1週間前に②デスク会議（ラフレイアウトの検討会議）

定例会開会前に③第2回会議（ラフ共有、ページ担当決め）

定例会閉会後に④デスク会議（校正作業、印刷会社と打合せ）、⑤第3回会議

（同じ）、⑥第4回会議、⑦第5回会議（校正作業）、⑧正副委員長による最終確認

⑨校了

委員の役割をデスクと記者に分ける。

議会事務局は①原稿提出状況の整理②原稿等のアップロード③写真のアップロード④委員による校正内容の整理⑤印刷業者との各種調整⑥簡易な校正作業を行う。LineWorkで各種データ共有SideBooksで原稿の共有、Googledriveで写真の共有を行う。

事務局に原稿のアップロードを行ってもらい自宅などで各自が委員会までに原稿チェックを行う。

編集方針は「読みやすい広報誌」とし、時代の潮流に沿った広報誌とし、読み手にとって読みやすい広報媒体を心がけている。例えば町民の声を積極的に掲載し、読者の興味を引く見出しをつくる。

メインターゲットを「〇〇に興味関心の薄い若い世代」とし、読んでもらわなければ意味がないという考え方のもと編集している。読み手にとり少しでも興味が湧くよう町民に関係度の高い内容を中心に掲載している。

表紙写真がきれいでドローンで撮影したような写真もあった。プロのカメラマン議員が撮影されている。ページ数が多い（28ページ）こともあると思うが予算をかなり取ってあると思う。

「議員ってどうなるの」の掲載が分かりやすく良いと思ったが、大津町の議会だよりを参考に書かれたと聞き嬉しかった。

文字が攻めている印象なのが元気なイメージを受けた。

王寺町も大山町も、読んでもらうために改革を重ねた結果、文字を減らし大菊し、町民の声や写真を多く掲載し、親近感を出している。また、身近なこととして関心をもってもらえるような掲載方法である。どういう内容で進めるのかを早い段階から練っているところも狙いを定めている印象。

広報編集委員会は九州内の視察研修のため、こうしてオンラインでの視察を受けていただけたことにとても感謝している。大山町はオンライン視察対応は初めてとのことで、反対に勉強になったと言っていたこともうれしかった。

今回オンライン視察で各自治体に問い合わせ準備していただいた大津町の議会事務局にも感謝しています。ありがとう。